

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定基準日	(1)定時株主総会・期末配当 3月31日 (2)中間配当を実施する場合 9月30日 (3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目7番20号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 電話 052-261-1781(代表)
郵便物送付先 お問合せ先	〒137-8650 東京都江東区塩浜二丁目8番18号 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 ☎0120-707-843
単元株式数	100株
公告方法	当社のホームページに掲載します。 http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

ホームページのご案内

<http://www.kanefusa.co.jp>

当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧いただけます。



この冊子の印刷・製本に係るCO₂はPROJECT-With the Earthを通じてオフセット(相殺)しています。

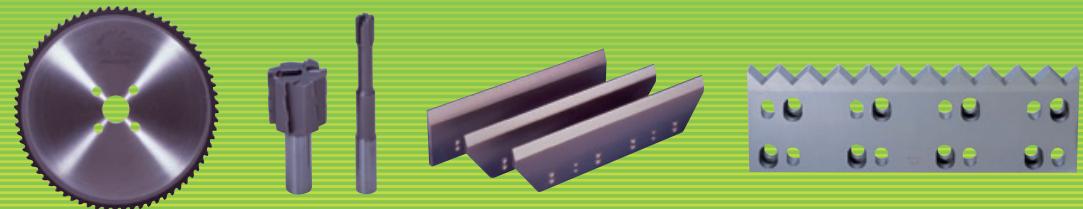
兼房株式会社



株主・投資家の皆様へ

第64期中間報告書

平成23年4月1日～平成23年9月30日



総力戦で挑む。これが総合刃物メーカー カネフサならではの強みです。



取締役社長
渡邊 将人

Q | 当上半期(2012年3月期中間)の業績についてお聞かせください。

異常な円高水準が続く中、売上についてはほぼ当初の計画通りとなりました。社員もそれぞれの持ち場でよく努力してくれたと感謝しています。ただし利益に関しては円高による為替差損の分が圧縮された結果となりました。

Q | 各国・各エリアそれぞれについて、状況をお聞かせください。

国内に関してみると、第1四半期は震災の影響で経済活動全般が停滞し、当社においても主力製品が伸び悩みました。その後自動車関連については急ピッチで回復し、現在ではほぼフル操業の状態に戻りつつあります。一方、住宅関連市場は震災復興に伴う需要が想定されましたが、復興対策の遅れなどもあり、まだまだこれからといった状況です。

海外についてみると、まず米国市場では自動車関連が好調な反面、住宅関連は低迷した状況が続いています。木材加工分野は長年かけて差別化に取り組み、当社にしかない製品を数多く生み出してきました。こうした製品をもっと市場に知らしめる努力を行う必要があると考えています。

ヨーロッパでは自動車産業の好調を背景とした金属切断用丸鋸や木工用丸鋸などが順調に推移しました。しかし、リーマンショックを端緒とするユーロ経済圏内の混迷は根深く、国単位で景況もはっきり異なっています。価格は高くても良い製品を提供するブランドとしてカネフサをさらに浸透させていきたいと思っています。

インドネシアは、ストライキ問題で約半数の社員が入り替わったため、現在は一人ひとりの技能や生産性の向上に注力している状況です。少し時間はかかりますが、1年以内にはほぼ元の状態に戻せるのではないかと考えています。また、洪水の被害が広がっているタイで、長年取引のある現地代理店の生産設備が浸水災害を受けていますが、完成品を輸出することで需要に応じていく予定です。中期的には、日本企業の生産拠点がタイからインドネシアにシフトすることも想定されますので、その意味でもインドネシアの迅速な復旧は重要なテーマになっています。

中国も一定の成長を果たしてはいますが期待が大きい分、もうひと頑張りしなければという印象です。特に国内需要の掘り起こしが課題です。その意味もあり、今年11月には北京にある販売拠点を天津に移転し、市場拡大に向けた活動を強化していくつもりです。

Q | 新しい中期経営計画がスタートして半年。その立ち上がりや今後の課題についてお聞かせください。

売上は順調に伸びている一方で、為替差損の発生もあり、利益面では目標達成へのハードルが高くなっていますので、利益体質の強化が重要な課題になってきます。

しかし、私はどんな環境においても、目の前にある課題をひとつずつクリアすることで採算性を向上させることができると考え



ています。現在、事業部や専門領域を越えた社内人事交流を行うことで、新しい視点で業務を見直す取組みを進めています。例えば、開発スタッフに製品企画の担当を任せたり、事業部長に営業出身者を抜擢するなど、総合的な視点を養ってもらう取組みをしてきました。さらに新しい取組みとして、グローバルな人事交流を進めています。例えば、日本の工場で平刃を担当している技術者が中国の丸鋸の工程を見ると、たくさん無駄が見えてくるといったように、視点を変えることで問題点が発見でき、業務効率化や品質向上につながっていきます。同じ事は資材調達や総務といった間接部門にも言えることです。このような新たな取組みは、グループ会社全体のレベルアップにつながるものです。

単品の価格勝負ではなく、豊富なラインナップと課題解決力で勝負できる、いわば総力戦で戦えるのが総合刃物メーカーカネフサならではの強みです。この特色を活かすため、さまざまな工夫を凝らしながら、健全な成長発展を遂げられるよう、さらに努力を重ねていく所存です。どうぞ引き続きご支援のほど、よろしくお願い致します。

- 1 株主の皆様へ
- 3 カネフサの製品
- 5 営業の概況

7 連結財務諸表

- ・連結貸借対照表
- ・連結損益計算書
- ・連結キャッシュ・フロー計算書

9 地域貢献

- ・モノづくり見学会
- ・職場体験学習

10 Information

- ・会社概要
- ・役員
- ・株式の状況

免責事項

本報告書に掲載されている当社の計画・戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。将来予測に関する記述に全面的に依拠することはお控えいただけますようお願いいたします。

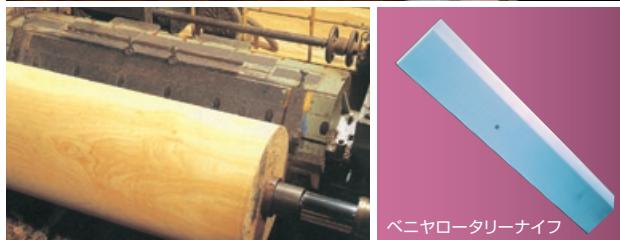
住宅から食品包装までさまざまな分野で活躍する カネフサの製品群

カネフサでは素材や加工方法に合わせて最適な切削工具を提供しております

木材加工

薄い板をむき出す

ベニヤ板(合板)を作るために、原木から薄板をむき出しますが、この時に使われるのが「ベニヤロータリーナイフ」です。



ベニヤロータリーナイフ

ベニヤ板の材料となる原木をベニヤロータリーレースという機械で回転させながら、刃物に押し当てて薄板をむいていきます。原木からむいた薄板を張り合わせて、ベニヤ板は作られます。

印刷・紙製品加工

大量の紙を切り出す

印刷や紙加工の現場では大きな紙シートから包装紙、紙幣などを所定の寸法に切り出します。この時に使われるのが「断裁包丁」です。



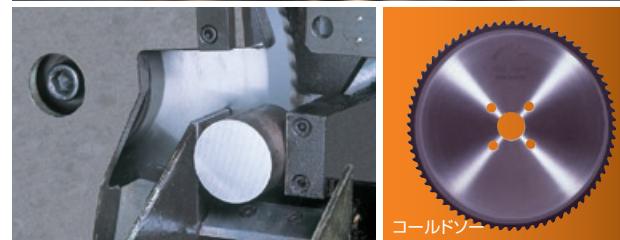
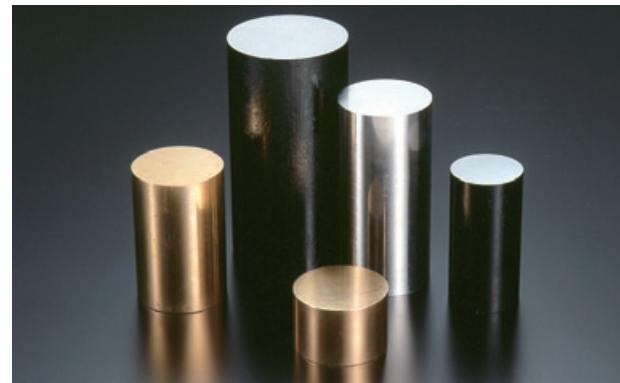
断裁包丁

断裁包丁は、主に印刷業界、製本業界などで使用され、用途に応じて刃先に使用する刃金(超硬合金・合金工具鋼など)を変更します。

金属加工

金属を切断加工する

鉄鋼業界、自動車業界などでは合金鋼、調質鋼、銅、ステンレス、アルミニウムなどの各種金属を切断します。この時に使われるのが「コールドソー」です。



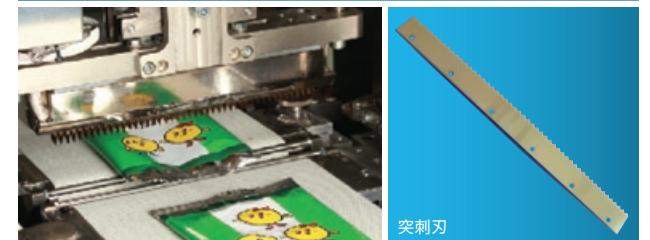
コールドソー

鋼材や自動車の足回り部品、鉄道のレールなどの金属切断加工の現場で活躍しています。

包装材加工

包装材を切断する

食品や医薬品などを包み込む包装材を切断する時に使われるのが「突刺刃」です。



突刺刃

包装の開封を容易にするため、特殊な刃先形状で、端面を切断します。

概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により一時的に停滞を余儀なくされましたが、サプライチェーンの復旧に伴い各企業の生産活動が徐々に回復し、個人消費においても持ち直しの動きが見られました。一方、世界経済は、米国経済の停滞懸念、欧州の金融不安を背景に急激なドル安・ユーロ安となっており、依然予断を許さない状況が続いております。

当社製品と関連の深い国内住宅関連産業では、新設住宅着工戸数は回復傾向が見られるものの、依然として低水準で推移いたしました。また、自動車関連産業では、東日本大震災後、国内のみならず海外でもサプライチェーンの混乱により自動車の生産台数は急激に落ち込み、その後回復いたしました。先行きははまだ不透明であります。

このような状況の下、当社グループはグローバル市場での販売拡大、海外生産の増強、非住宅関連市場の開拓、国内住宅関連市場の占有率拡大などを目指し、戦略的な製品開発、生産、営業活動を展開いたしました。

売上高

国内における売上は、木工用丸鋸や合板用刃物などが好調に推移し、住宅関連刃物、非住宅関連刃物ともに堅調に推移しました。一方、海外での売上は、欧州・米国及びアジア市場を中心に金属切断用丸鋸、木工用丸鋸などが好調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は74億8千5百万円（前年同期比10.5%増）となりました。

利益

利益面につきましては、営業利益は5億1千2百万円（前年同期比88.3%増）となりましたが、急激な円高により営業外費用で為替差損1億6千3百万円を計上し、経常利益は3億5千6百万円（前年同期比156.1%増）となり、特別損失で投資有価証券評価損4千3百万円を計上したことなどにより、四半期純利益は1億7千3百万円（前年同期比74.9%増）となりました。

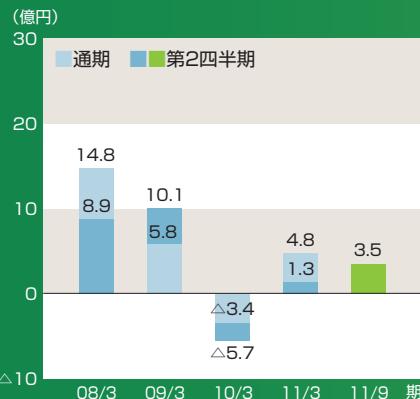
通期の見通し

通期の連結業績予想につきましては、連結売上高150億円、営業利益11億3千万円、経常利益10億5千万円、当期純利益5億8千万円を見込んでおります。

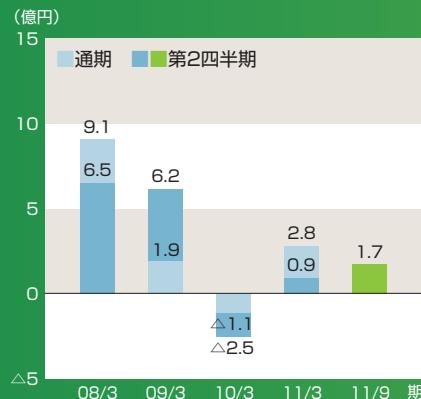
売上高



経常利益



四半期（当期）純利益



総資産・純資産



2011年度上期新製品

スキムコート (超硬製三方断裁包丁)

刃物に特殊な表面処理を施すことにより、粘着機能のある紙の断裁時に糊の付着を防止することができます。刃物に付着した糊を取り除く危険作業の削減やライン停止時間の短縮が可能となり生産性が向上します。また、糊などの付着物を防止するためのシリコンスプレーの使用量が減り、作業環境の改善につながります。



総資産

現金及び預金が3億1千万円増加、原材料及び貯蔵品が1億5千6百万円増加し、また、有形固定資産が9千6百万円増加、投資その他の資産が1億2千4百万円減少したことなどにより、総資産は前期末比3億6千8百万円増加して214億4千6百万円となりました。

負債

支払手形及び買掛金が1億4千4百万円増加したことなどにより、前期末比1億9千5百万円増加して38億1千2百万円となりました。

純資産

利益剰余金が8千9百万円増加、その他の包括利益累計額が8千3百万円増加したことなどにより、前期末比1億7千3百万円増加して176億3千4百万円となりました。また、自己資本比率は前期末の82.8%から82.2%となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期末	前期
		平成23年9月30日現在	平成23年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産		12,313,771	11,906,648
固定資産		9,132,633	9,171,027
資産合計		21,446,405	21,077,675
(負債の部)			
流動負債		3,109,516	2,848,896
固定負債		702,527	767,618
負債合計		3,812,043	3,616,515
(純資産の部)			
株主資本		17,760,805	17,671,555
その他の包括利益累計額		△126,444	△210,395
純資産合計		17,634,361	17,461,160
負債純資産合計		21,446,405	21,077,675

連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期	前第2四半期
		平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
売上高		7,485,027	6,771,050
売上原価		4,959,190	4,613,330
売上総利益		2,525,836	2,157,719
販売費及び一般管理費		2,013,462	1,885,584
営業利益		512,374	272,134
営業外収益		25,563	25,753
営業外費用		180,944	158,503
経常利益		356,993	139,385
特別利益		1,188	1,743
特別損失		45,757	28,294
税金等調整前四半期純利益		312,423	112,833
法人税等		139,197	13,781
少数株主損益調整前四半期純利益		173,226	99,052
四半期純利益		173,226	99,052

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期	前第2四半期
		平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		930,440	792,024
投資活動によるキャッシュ・フロー		△579,679	△353,404
財務活動によるキャッシュ・フロー		△104,255	△104,315
現金及び現金同等物に係る換算差額		△25,365	△72,779
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		221,139	261,524
現金及び現金同等物の期首残高		3,168,711	3,115,024
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		22,304	—
現金及び現金同等物の四半期末残高		3,412,155	3,376,549

モノづくり見学会

平成23年7月28日

(財)中部科学技術センター主催の『モノづくり見学会』として、当社が見学工場となり小中学生20名が来社しました。当見学会は、次世代層へのモノづくり普及啓発活動として小学校4年生から中学校3年生を対象に、ふだん身の周りにある製品がどのような工程を経て、製品化されているのかを体験します。工場見学によって当社が製造しているさまざまな工業用刃物は、住宅建材、紙製品、自動車部品などの加工に使用されていることが理解されました。



職場体験学習

平成23年8月24日から26日

兼房では将来を担う人材育成のお手伝いとして、地域の大口町立大口中学校の『職場体験学習』に毎年協力しています。中学校の生徒達は『職場体験学習』を通じて、働くことの喜びや苦勞、生きがいや意義について学びます。

今年の『職場体験学習』では、モノづくりの現場における安全の重要性を学びました。また、実際に断裁機による紙の切断を体験することによって、切断試験をする際の安全上の注意点を理解しました。

今後もこのような活動を通して、地域社会における人材育成に貢献します。



Information

会社概要 (平成23年9月30日現在)

商号	兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION
設立	昭和23年11月25日
資本金	21億4,250万円
本社所在地	愛知県丹羽郡大口町小口一丁目1番地
従業員数	578名
主要な事業内容	工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資及び技術供与。
主要な事業所	本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 中部 関東 関西 営業所 札幌 福岡 広島 仙台 海外駐在員事務所 マレーシア
子会社	PT.カネフサインドネシア カネフサUSA,INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 昆山兼房精密刀具有限公司 カネフサインディア Pvt.Ltd. カネフサド ブラジル LTDA. 大口サービス株式会社

役員 (平成23年9月30日現在)

取締役社長	渡邊 将人	取締役	春日 晃
専務取締役	太田 正志	取締役	萬谷 哲朗
常務取締役	稲葉 公男	取締役	石田 信之
常務取締役	平子 哲朗	取締役	鈴木 仁
常務取締役	西尾 悟	常勤監査役	柳瀬 敏行
常務取締役	藤吉 芳久	監査役	辻中 修
		監査役	鮎澤 多俊

株式の状況 (平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	14,310,000株
株主数	1,793名

大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
大口興産株式会社	2,299	16.5
渡邊 裕子	1,200	8.6
太田 万佐子	1,161	8.3
兼房従業員持株会	949	6.8
渡邊 美奈子	845	6.0
渡邊 浩	743	5.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	570	4.1
渡邊 将人	424	3.0
太田 正志	394	2.8
株式会社りそな銀行	200	1.4

(注)持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

